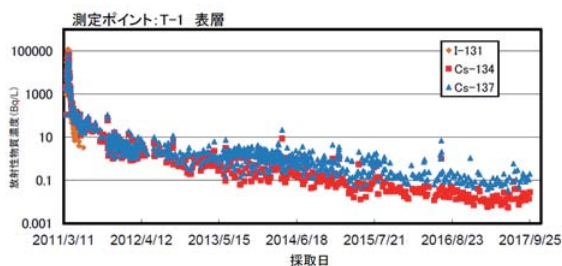
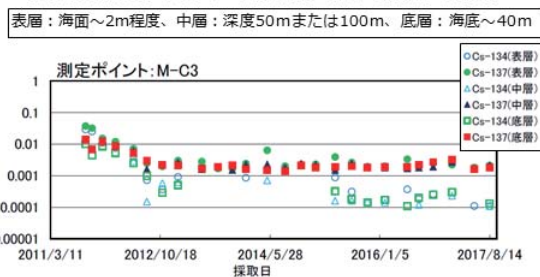


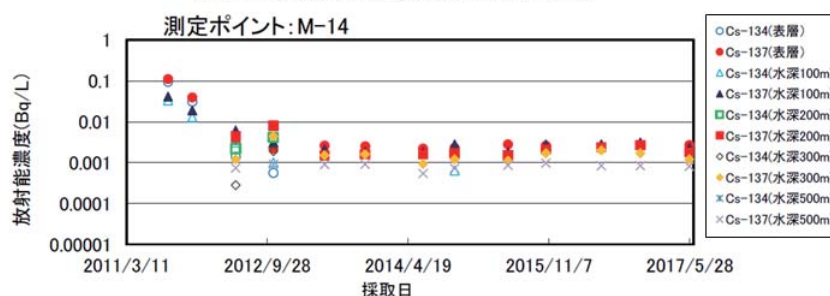
福島近傍・沿岸の海水の放射性物質濃度の推移



福島県沖合の海水の放射性物質濃度の推移



外洋海域の海水の放射能濃度の推移



震災後から平成29年9月25日まで

※測定ポイントについては、下巻P36「海水と海底土の濃度」参照

原子力規制委員会海洋モニタリング結果 <http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/list/428/list-1.html>

放射性セシウムが付着した土壌は川を經由して沿岸まで運ばれます。

東京電力福島第一原子力発電所近傍の沿岸の海水の放射能濃度は、事故直後は10万Bq/Lに上昇しましたが、1か月半後にはその1,000分の1である100Bq/Lに下がり、1年半後には10Bq/L、さらに現在では1Bq/L以下にまで下がりました。

事故から半年後には、沿岸からの放射性セシウムを含んだ土壌が陸地から30kmの沖合まで運ばれましたが、沖合の測定ポイントM-C3の濃度は0.05Bq/Lと沿岸濃度の200分の1まで薄まっています。平成24年には、放射能濃度の高い海底近くでも0.008Bq/Lまで下がっています。表層や中層も下がっています。

陸地から180km離れた外洋では、事故から半年後でも表層の濃度が30km沖合の濃度と同じ程度の0.1Bq/Lとなっています。事故から2年後には、0.001Bq/Lと更に2桁下がっています。

(関連ページ: 上巻P179「海洋中の放射性セシウムの分布」)

本資料への収録日: 平成26年3月31日

改訂日: 平成30年2月28日